

## 新たな郊外都市モデル構築に向けた“公民+学”連携のまちづくり

■実施主体：一般社団法人美園タウンマネジメント

■場所：埼玉県さいたま市

■背景・経過：

さいたま市の東南部、東京都心 25km 圏の郊外に位置する「美園地区」は、2001 年 3 月開業の埼玉高速鉄道線「浦和美園駅」を中心に、“市の副都心”の一つとして大規模な新市街地形成の進むエリアである。2001 年 10 月開場の埼玉スタジアム 2002 公園（以下、「埼玉スタ」という）も囲みながら、本市緑区と岩槻区にまたがり総面積約 320ha・計画人口約 32,000 人の土地区画整理事業（区域愛称：みそのウイングシティ）が 2000 年度に施行開始。2006 年 4 月の先行街区の街開き以降、住宅・店舗等の建設や学校・公園等の整備も徐々に進み、子育て世代を中心に人口が急増しつつある。本地区をフィールドに、綾瀬川・見沼田んぼ・埼玉スタ等の地域資源も活かしながら、市の目指すスマートシティのモデル地区として IoT・AI 等の先進技術を積極導入し、心豊かなライフスタイルとコミュニティを体現した、脱炭素・循環型地域社会を目指した新たなまちづくりが進められている。

■取組内容：

2015 年 10 月に開設したまちづくり情報発信・活動連携拠点「アーバンデザインセンターみその（略称：UDCMi）」を拠点に、「“公民+学”連携」の理念のもと、多くの民間企業・大学・自治会連合会・区画整理事業関係者・行政を会員とする任意組織の運営を通じ、ハード・ソフトに亘り地域課題の解決に取り組んでいる。

埼玉スタを有する地区として世界に誇れる“スタジアムタウン”を実現すべく 2020 年を短期目標に、ウォーカビリティ向上を軸とした快適な市街地環境形成に向け、街並みデザイン誘導體制の構築や河川空間の高質整備・管理運営等を進める一方で、再生可能エネルギーの地産地消に向けたデジタルグリッド技術導入や鉄道回生電力を活用した EV バス急速充電システムの開発・実証など、先進技術を取り入れた環境負荷低減にも取り組んでいる。

また、地域の QOL 向上のため、ICT を活用した子育て支援・モビリティシェアリング・健康増進プログラム等の地域サービス事業を展開。各サービス運営を通じて得られる地域データ等をエリア価値向上に有効活用すべく、その方策検討や基盤システム開発・運用実証も進めている。さらには、地域イベント事業や交流ワークショップ等も開催し、新市街地特有の課題であるシビックプライド醸成やコミュニティ形成促進にも取り組んでいる。

各事業の成熟化・相互連携促進を図る中で、2016 年 7 月に都市再生推進法人として指定を受け、事業収益をまちづくりに還元・再投資するサイクルの確立を目指している。



浦和美園駅周辺「みそのウイングシティ」(2018 年 5 月)



レジリエンス向上・コミュニティ形成も加味した低炭素型住宅街区



「みその健幸マイレージ」、「美園タッチウォーキング」



マルシェ事業「みそのいち」を通じた駅周辺公共空間活用